アントレプレナーシップ教育
効果測定調査 報告書
（概要版）

2026 年 3 月

株式会社日本リサーチセンター

目　次

１．調査概要等　・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

２．調査結果の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

３．実施群における自覚的評価（事後調査）　・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

４．主な指標の変化（事前・事後調査）　・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

５．実施群での反応（自由回答より）　・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

６．結論・今後に向けて　・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

１．調査概要等

（１） 教育プログラムの概要

今回実施されたアントレプレナーシップ教育プログラム（以下「アントレ教育」という。）である「クエストエデュケーション」（開発：株式会社教育と探求社）は、年間で全国約 11 万 1 千名（2025 年度）の中高生が、学校の授業の中で企業活動や社会を題材に学ぶ、探究教育プログラムである。

本プログラムのうち今回実施された「起業家コース（スモールスタート）」は、最先端の手法で商品開発を体験し、起業家精神とスキルを学ぶ内容となっており、全 16 ステップで構成されている。

本コースは、「自分で何かを始める」楽しさを体感しながら試行錯誤を重ねて、発想力や創造力、チャレンジ精神を育み、主体性や「ゼロからの価値を生み出す力」を喚起することを目的としている。

（２） 調査の概要

本調査は、本アントレ教育の効果測定のため、以下の概要に基づき実施した。

① 調査目的

アントレ教育の実施前後でコンピテンシー等を測定し、効果を把握する。

② 調査方法

インターネット調査

－学校のタブレット等を使用、同一生徒に対して事前調査・事後調査の 2 調査を実施。

③ 調査地域・学校数

A 県 B 市の中学校 4 校

④ 調査・分析対象者

中学生 1～3 年生　1,086 人

－アントレ教育実施校 2 校（実施群）と非実施校 3 校（対照群）に対し、それぞれ事前・事後に調査を実施（うち 1 校は、実施生徒、非実施生徒ともに存在）

－事前・事後の両調査を回答した生徒のみを集計・分析対象としている。

⑤ 質問数

事前調査：16 問／事後調査：最大 18 問（うち 2 問は実施群のみに聴取）

⑥ 実施時期

事前調査：2025 年 8～9 月／事後調査：2026 年 1 月

－実施群におけるアントレ教育は、2025 年 9 月～2026 年 1 月上旬にかけて実施。

（３） 調査対象者の状況

アントレ教育実施前の学校・学習等の意識を確認したところ、実施群は対照群より学校や学習に対して意識がやや高い項目もみられたが、勉強への興味や勉強が役に立っているという有用感、成績の自己評価はほぼ同じであった。

2．調査結果の概要

【実施群における自覚的評価（事後調査）】(p.3)

今回のアントレ教育を体験した生徒（実施群）には、「うまくいった」という手ごたえや、「自分の役に立つ経験になった」という有用感に加え、「いろいろなことにチャレンジしたい」という自発的な意欲の変化がみられた。

【主な指標の変化（事前・事後調査）】(p.3-4)

全体としては、本教育の主題である「どんな商品・サービスが売れるかを考えてみることが好きだ」という課題処理・遂行力の項目に明確な反応が得られた。また、「課題が与えられた時に、自分の考えをたくさん出すことができる」「思いついたアイデアを絵や文章で説明できる」といった課題認識・理解力、プレゼンテーション力の項目においても、TOP3（非常にあてはまる／かなりあてはまる／ややあてはまる の合計）[1]での比率向上が確認された。

実施群の特定のグループ区分での分析（分析区分別）では、学校成績の自己評価が高い層において、前述の項目に加え「他の人からの意見を受けて、考えややり方を変えることができる」といったコアスキルも上昇した。成績面で自信のある、学校教育に適応しているとみられる層に対して、効果があったといえる。

特筆すべきは、学校が好きではない層や、学校の勉強以外の学びの意欲が低い層においても、事後調査のスコアアップがみられた点である。

- 学校が好きではない層
  「わからないことがある時に参考になりそうな情報を集め、他人と話し合うことができる」という情報収集・活用力の項目が顕著に上昇した。これは「情報収集・活用力」のみならず、項目表現の「他人と話し合うことができる」部分に反応を示した可能性も考えられることから、プログラムを通じた他者とのコミュニケーション経験が寄与していることも考えられる。
- 学校の勉強以外の学びの意欲が低い層
  「課題処理・遂行力」「情報収集・活用力」などの直接的効果に加え、「今あるものを活用して、新しいものを作ってみたい」というアントレプレナーシップ指標（以下、「アントレ指標」という。）や、「日本や世界で活躍できそうな気がする」「自分の力で、世の中をよい方向に変えることができそう」といった未来への期待感も上昇した。これらは自己効力感の向上につながっていると推察される。

また、本プログラムを経て、平均個数以上のスコア上昇がみられた「スコアアップＨ層」[2]は、事前

---

[1] 各質問項目は「非常にあてはまる/かなりあてはまる/ややあてはまる/あまりあてはまらない/ほとんどあてはまらない/まったくあてはまらない」の 6 段階で聴取し、「非常に＋かなり＋ややあてはまる」の回答比率の合計を TOP3 と表記している。

[2] 各質問項目（効果測定指標 50 項目・各 6 段階）において事前・事後で 1 段階でもよい方へ回答が変化したものを「スコアアップ」と定義。スコアアップ平均項目数（実施群・対照群ともに約 15 項目）を基準として以下のように区分し、両層の違いを確認した。

・スコアアップＨ層＝50 項目のうち、スコアアップが 16 項目以上の人

・スコアアップＬ層＝50 項目のうち、スコアアップが 15 項目以下の人

調査の段階では学校・学習・学校以外の関心事へのモチベーションが低い層であった。事後調査でこの層は「スコアアップＬ層（平均個数以上のスコア上昇がみられなかった層）」に比べ、アントレ教育を通じて「うまくいった手ごたえ」をより強くつかんでおり、自身の役に立つ経験としてチャレンジ意欲の向上につながった様子がうかがえる。

３．実施群における自覚的評価（事後調査）

実施群（アントレ教育を受けた生徒）では、「自分の役に立つ経験になった」が TOP3（非常に＋かなり＋ややあてはまる）で 87.7%と 90%近くが回答している。また、同じく TOP3 では、「うまくいったという手ごたえ」（80.2%）、「いろいろなことにチャレンジしたい」（82.1%）といった気持ちも 80%以上の生徒に醸成されている。

アントレ教育を終えての意識	TOP3 回答比率*
自分の役に立つ経験になったと感じた	**87.7%**
うまくいったという手ごたえを感じた	**80.2%**
このプログラム（授業）全体を終えて、いろいろなことにチャレンジしたいと感じた	**82.1%**

＊「非常にあてはまる/かなりあてはまる/ややあてはまる/あまりあてはまらない/ほとんどあてはまらない/まったくあてはまらない」の 6 段階で聴取し、「非常に＋かなり＋ややあてはまる」の回答比率の合計を TOP3 としている。

４．主な指標の変化（事前・事後調査）

（１） アントレ教育受講後に実施群全体で上昇した主な項目

実施群においては以下の 3 項目でアントレ教育の事前・事後でスコアアップがみられた（対照群ではこれらの項目に有意な上昇がみられないことからも、実施群での効果といえる）。

課題処理・遂行力
「どんな商品・サービスが売れるかを考えてみることが好きだ」
実施群において平均値が有意に上昇（有意水準 5%）。今回のアントレ教育を受けた生徒全体への効果といえる中心的な結果。

課題認識・理解力
「課題が与えられたときに、自分の考えをたくさん出すことができる」
平均値での有意差は確認されなかったが、TOP3（非常に＋かなり＋ややあてはまる）が事前比で 7 ポイント上昇。

プレゼンテーション力
「思いついたアイデアを絵や文章で説明することができる」
同じく、TOP3 が事前比で 7 ポイント上昇。アントレ教育による生徒全体への影響可能性のある項目と考えられる。

（2） 実施群の特定のグループで上昇した項目

実施群全体のみならず、特定のグループ区分（分析区分）別でも以下のような効果がみられた。

グループ区分（分析区分）	主な傾向
学校成績の自己評価が高い層	**課題処理・遂行力、プレゼンテーション力**に加え、**コアスキル「他の人からの意見を受けて、考えややり方を変えることができる」**も上昇。学校教育に適応している層でコアスキルが伸長。
学校が好きではない層	**情報収集・活用力「わからないことがある時に参考になりそうな情報を集め、他人と話し合うことができる」**が顕著に上昇。情報収集・活用力のみならず、「他人と話し合うことができる」部分に反応を示した可能性も考えられる。
学校の勉強以外の学びの意欲が低い層	**課題処理・遂行力、情報収集・活用力**といったプログラムの直接的効果に加え、**アントレ指標「今あるものを活用して、新しいものを作ってみたい」**や、**未来への期待感「日本や世界で活躍できそうな気がする」「自分の力で、世の中をよい方向に変えることができそう」**も上昇。

5．実施群での反応（自由回答より）

プログラム（授業）全体を通じた気持ちの変化の有無と変化の内容を自由回答で聴取したところ、主に次の表のような内容が挙がった。件数が多いものは「協力・団結」「楽しさ・喜び」「意欲・前向き」に関連する内容であった。一見ネガティブな記述の中でも、「難しかったが楽しかった」などの手ごたえ・やりがい、最初は不安だったが徐々にポジティブな気持ちに変容していく様子についてのコメントが比較的みられた。

また、「伝える」「考える」「視点の持ち方」など多様な面からの記載があり、アントレ教育を受けたことにより、各自の心理、思考、行動などの面に効果・影響があった様子がみてとれる。

自由回答の内容分類と該当件数

A 感情・マインドの変化（内的要素）
回答者が自分自身の内面についてどのように感じたか

B 対人・コミュニケーションの変化（対外的要素）
他者との関わりや、外に向かって発信すること

C 思考・プロセスへの理解（認識・スキル要素）
物事の考え方や、商品開発という「作業」そのものに対する気づき

D 将来・社会への繋がり（展望要素）
この経験を、プログラムが終わった後の自分や社会にどう繋げるか

＊1人の回答に複数の要素が含まれているものは、複数のコード付与してカウント。
＊「特にない」「わからない」のみの回答は除外。

	分類	キーワード	主な内容	件数
1	B	協力・団結	「協力の大切さ」「チームで取り組む良さ」「団結した」ことへの気づき	84
2	A	楽しさ・喜び	「楽しい」「面白かった」「ワクワクした」という感情	82
3	A	意欲・前向き	「もっとやりたい」「積極的に」「挑戦したい」「乗り気になった」などの前向きさ	52
4	C	生みの苦しみ・難易度	「0から1を作るのは大変」「商品開発の難しさ」「時間がかかること」への理解	48
5	A	不安・苦戦	「最初は不安だった」「難しくて苦戦した」「無理だと思った」などのネガティブ寄りな初期状態	34
6	B	発信・伝達	「自分の意見を伝える」「発表する」「相手に分かりやすく説明する」ことに関する言及	31
7	C	探究・考え	「正解がない」「自分で考える」「新しい発見がある」ことへの気づき	26
8	A	自信・自己肯定感	「自分にもできるとわかった」「自信がついた」「自分の意見に自信を持てた」などの自己肯定感	25
9	B	他者受容・多様性	「自分と違う意見を知る」「他人の視点を取り入れる」「アドバイスを聴く」といった受容性への意識	23
10	C	ニーズ・顧客視点	「使う人の立場に立つ」「社会の役に立つか」「誰のために作るか」という意識	23
11	D	将来・進路への意識	「将来の役に立つ」「進路について考えた」「将来こんな仕事がしたい」という希望・意識	20
12	C	改善・試行錯誤	「ブラッシュアップ」「修正を重ねる」「何回も考え直す」ことの重要性	15
13	A	達成感・やりがい	「やり遂げた」「達成感がある」「やりがいを感じた」という感覚	14
14	C	多角的・客観的視点	「いろいろな視点で見る」「客観的に自分を見る」「広い視野を持つ」こと	14
15	D	社会・経済の理解	「社会の仕組み」「商売の大切さ」「世の中を便利にしたい」という社会意識	13

6．結論・今後に向けて

以上の結果から、今回のアントレ教育は生徒の学習意欲やコンピテンシー向上に寄与しており、とりわけ学校教育に課題感を持つ層にとって「新たな学びの契機」として機能することが期待される。

また、学校教育に適応しているとみられる層に対しても、コアスキルの伸長という形で一定の成果が得られた。

一方、本効果測定における今後の課題としては、各質問項目の再検討（具体性と抽象度のバランス、中学生に適した表現への見直し）が挙げられる。合わせて、各種外部データとの連携による分析の充実や、教員からみた生徒の変容を捉えるなど、多角的な把握・分析が必要である。

また、アントレ教育が子どもの意欲やコンピテンシーに与える影響は、即時的な把握が困難な側面もある。そのため、今後も継続的な実施と効果検証が必要と考える。